

東西文明の代表者 飛行家スミスと詩聖タゴール

法學博士 浮田和民

先年東京に於て世界大博覽會を開催しては如何との議が起つた時我輩は頗る世界の進運に貢獻する美譽であると思つたそれは西洋の博覽會に於て實現し難き程に東西文明の比較研究を爲す機會を與ふるからである。今日は世界大戦争の最中で博覽會どころの騒ぎではない。然るに東洋の獨立國たるお蔭によつて日本は戦争に参加し乍ら前には米人ナイルスやスミスなどの米國飛行家を招待し今又た印度の詩聖タゴールを歓迎し恰かも東西文明の共進會をなすつゝあるは天佑神助の日本國民に優渥なる證據として我輩の感謝に堪へざる所である。

米人スミスの妙技は殆んど神境に達し飛鳥も及ばぬ宙返りを大空に演じ、満都の人心をして驚歎措く能はざらしめた。

兎に角かやうに矛盾した二個の人物を國民的賓客の如く接待しつゝある日本人こそ奇態の國民と見なければならぬ。何となれば現在日本人の思想は未だ容易に東西新舊の文明を調和し得る程に發達して居ない。吾人は今日現に矛盾思想の中に生活しつゝあるのである。それは内外思想の一大過渡期に當つて固より避く可からざる所であるが日本人は餘り之が爲めに煩悶を爲さず又た苦痛を感じて居ない。彼等の趣味は他國人が忍び難しとする二重生活を平氣で爲し其の矛盾を矛盾とも思はずして容易に經過しつゝあるのである。吾人は日常の衣食住に於ても和洋混淆の生活をなし又た思想信仰に於ても或る時は東洋或る時は西洋其の何れにも歸依し無頓着に其間を出入往來して居る。前に米國飛行家を歓迎し後に現代文明を呪う印度詩人を款待するが如きは毫も怪しむに足らぬことであらう。

詩聖タゴールは何處までも印度人である。其の思想は印度固有の傳説習慣に超越した所があるにせよ其の精神は徹頭徹尾印度的であつて西洋の詩人とは全く其の趣が違つて居る。西洋の詩人は何處までも現世の人間であり、又た社會の人間であるが詩人タゴールの風采を見れば殆んど現世の人とは思

東西文明の代表者 (法學博士 浮田和民)

而して彼れが齎らした教訓は科學の應用が何邊まで進歩すべきか其の窮極なきことを思ひ起させた所にある。當分外國人が日本に來つても彼れほどに注意を惹くことは困難であらうと思はれた。然るに其の矢先きに印度の一詩人タゴール飄然來遊と聞ては一種反對の喜劇に接する心地がした。ところで彼が神戸上陸以來忽ち多大の人氣を其の一身に集め官民朝野の歡迎を受けたのは是れ亦た日本現下の人心を卜するに足るものありとでも言ふ可きであらう。スミスの空中飛行とタゴールの詩的感想とは一寸調和し難き所がある。スミスの妙技は神を欺くものあるに拘らず彼を以て天人の來迎と見ることは出來ぬ。詩聖タゴールに至つては足一歩も大地を離れず身は現在の人に過ぎないが彼れは渾身詩的であつて其の思想は古今に超越しスミスの空中飛行にまして何物か更に高遠なるものを齎らしたかの如く歡迎されて居るのは不思議である。

はれぬ。彼れは一度死して墓に入つた人間が再び世に出で來つたかの如き感をも人に與ふるのである。彼は印度の熱地に生れながら久しく雪山の奥に潜んで居た仙人の如く彼の身邊よりは夏猶寒き一種の冷氣が四圍の人々に感傳する様に思はる。彼れには一種の熱氣がある。併しそれは火に接するときの熱氣ではなく、石の如く凝結した氷塊に接する時の熱氣である。此の如き詩人の聲に接すれば吾人をして三伏の盛夏の暑を忘るゝの思あらしむるの自然日本人の胸臆にも一種印度詩聖の感懷に響應するものある爲であらう。日本人は如何に西洋化しても矢張り東洋人である。其の心底には東洋思想が潜んで居る。而して印度思想は確かに其の一要素たることと疑ひなき所である。此の印度思想は支那や日本に於ては印度に於けるが如く人間生活の全部を支配するには至らなかつたけれども儒教思想の淺薄且つ表面的なるに比すれば東洋人の内心に深く且つ固き根柢を有つて居る。由來印度人は高大なる雪山の感化を受け世界に聳へて最も高遠なる哲學思想を發揮したのである。然かも其の哲學は宗教より出で、宗教を離れず、全然現象界を超脱し其の道德は人間界を出發點となすけれども窮極超人間の的である。他の東洋人に比して印度人の思想の超越的なるは譬へば雪山の富嶽よりも高きが如くである。印度思想の高遠なるに對するときは西洋の科學及び之

を基礎とする哲學は全く平面を異にした二個の別世界を見る様である。

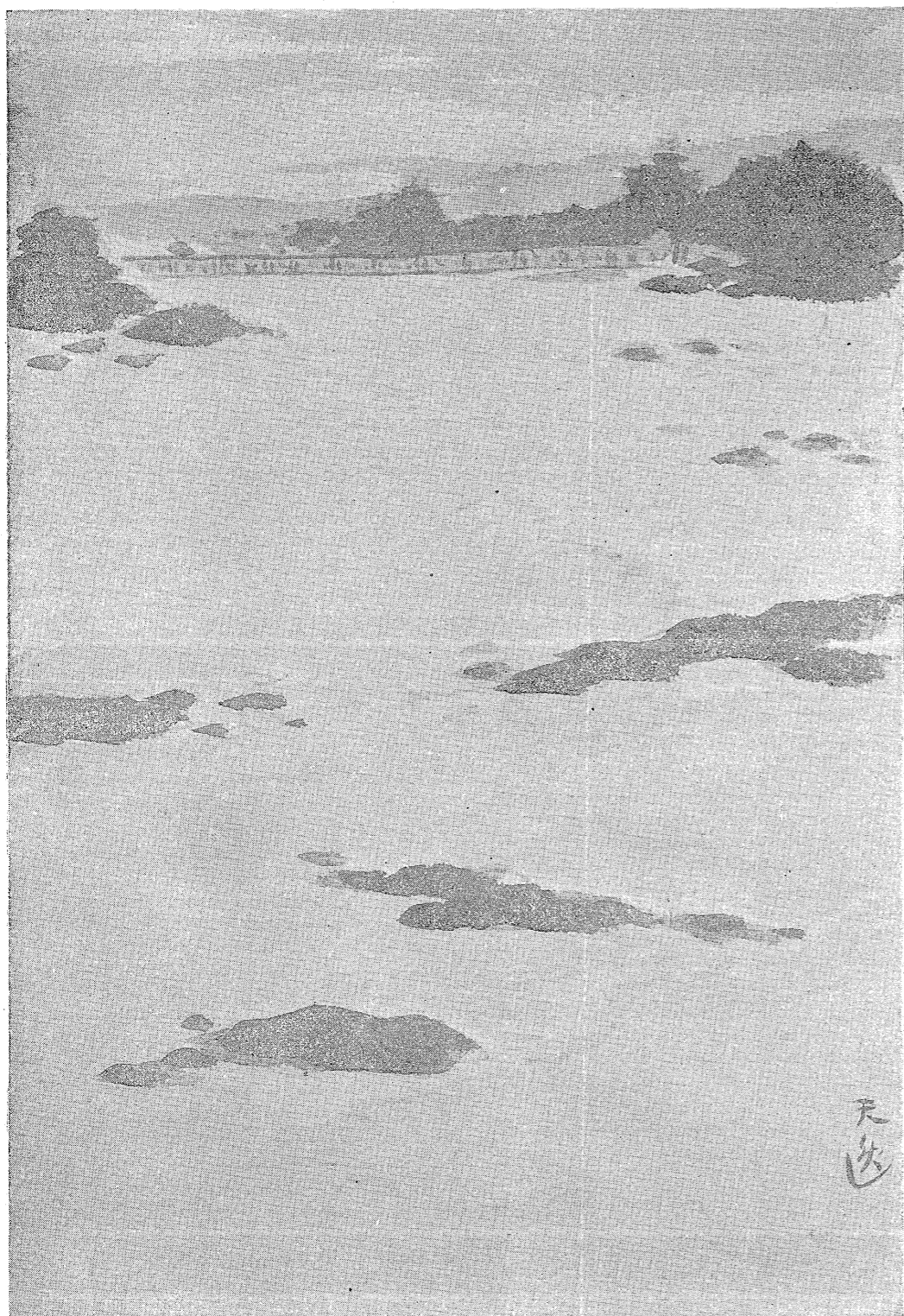
タゴールに比すると米人スミスは同類の人間ではない。謂はゞタゴールを造つた神とは全く別なる神が造つた人間かと思はるゝ。今や世界は大戦争であつて統一せる神の本體は破壊されて居る。獨逸皇帝が毎度祈願せらるゝ神は獨逸人だけの神であつて聯合側の神とは別物である。それと同じ道理で詩聖タゴールを産んだ神は印度の神であつてスミスを産んだのは米國の神即ちヤンキー神に相違ないのである。人生を視るタゴールの眼は實際を超越し現象界を脱離して居るがスミスには哲學思想は爪の垢ほどもなからう。彼れは青年で熱心なる基督信者といふ事であるが西洋普通の宗教思想と仰度思想とは全然其類を異にしたもので比較にならぬ。西洋人の實在は何處までも具體的である。之に反して印度人は具體の世界を假現となし抽象の世界に實在の本體を發見するのである斯くタゴールとスミスとは全く別世界の人間であるが二人共に宗教的信念を有し萬有に對し又た人間に對し深く敬畏の念を懷く點に於て一致するのである。彼等は共に平和の福音を齎らして東西より日本に來遊したのである。

三

日本人が飛行家スミスを以て一種の輕業師となし之に無禮を加へたのは非常の失禮であつた。先月十五日の基督教世界及び實業之日本を讀む者は思ひ半に過るであらう。基督教世界は彼に就て左の如く記載して居る。

所謂鳥人スミスは信仰の堅實なる基督者である。彼は聖書を愛讀し、一滴の酒も口にせない善良の紳士である。彼は飛行を畢へて夜間靜かにホテルの一室に休養するときは聖書を友として天父に對する靈交を間斷なく續けてゐる篤信の人である。基督の愛を知つてゐるから飛行も決して怖れない。いや、怖るゝものか、彼は天父の擁護の下に悠揚其飛行の使命を竭くして居るのである。

又た實業之日本は彼が或る宴席に於て左の如く述懐談をなしたことを掲げて居る。
余は日本の新聞紙が男子の名譽に對し甚だ無責任なるに驚く、余は直に名譽恢復の訴を爲さんとしたれども日本の習慣として此種の訴認は必しも利益ならずと聞き止む、飛行家として重大なる天職を有する余は品行を慎まざる可からず、余は是迄品行上に付一點の非難を受けたる事なし、此の如き無實を傳へらるゝは余に取りて痛恨なる一大事件なり、若故國に在す母上の耳にも入らば如何に心を痛めらるべきと思へば夜の目も睡る能はずと、聲涙共に下る云々



天邊

東西文明の代表者 (法學博士 浮田和良)

我輩は彼の妙技に感激すると同時に、彼れが儼然侵す可からざる人格を備へ天父を畏敬し慈母に至孝なる其の心術に對し深く尊敬の意を表する者である。日本の飛行家中には大飛行の壯舉に際し前夜盛宴を張り、狂歐亂舞の有ん限りを盡して相慰む者もあるといふ事であるがそんな心掛けで飛行の技術を完全に習得せんことは望む可からざる事である。抑々軍人として飛行を學ぶのは専ら國防の爲であるから忠孝の心を専一となす可きは言ふまでもなき事であるが飛行の使命或は飛行の天職を自覺するスマスの如きは其心中愛國心以上の物がある。之を宗教的に云へば神を信じ人を愛し以て世界の平和に一大貢獻を爲さんと欲する理想である。之を科學的に言へば天然の法則を究め其の應用を誤らざるときは以て自然界を征服し人間の最大幸福を成就することが出来るといふ確信である。之を青年の英雄的心事から言へば空中飛行家の大野心は彼のナポレオンが歐羅巴を征服せんとしたる如く空中の世界を征服し之を人間交通の衝路たらしめんと欲する希望である。元來飛行機や潜航艇は最初軍事上の目的によつて多く發達し來つたけれども終局は人間の勢力を空中海底に及ぼし運輸交通の機關たらしむるは疑ふ可からざる所である而して空界征服の事業は恐らく海底航行の事業以上に遠大な意義を有するであらう。潜航艇は如何に發達しても水中に

限らるゝが飛行機は水陸兩面に互りて空界に通用する利器である。將來人間が此の利器を完成して飛鳥の如く自由自在に空中を横行することゝならば第一現今海陸に行はるゝ戦術を一變せしむるであらう。從來列國が國防の要具として最も重きを置いた堅城鐵壁も役に立たず、超弩級の戦艦も不用に歸するであらう。平時列國の經濟的競争も空中の往來頻繁となれば自然緩和せらるゝに至るであらう。何となれば今日の如く陸境若くは海口に於て税關を設け外來品を排斥するが如きは到底行ふ可からざる時勢後れの制度となるからである。此くて飛行術の發展は列國の國法及び國際法をも一變せしむるに至るであらう。而して是は決して詩人若くは小説家の夢想ではないのである。

四

タゴールとスマスとは全く別世界の人間であつて兩人思想の系統は相距ること南北兩極も管ならぬであらう。此の兩人を一所に記載するさへ世間或は我輩の無識又は無趣味を嘲るであらうと思はるゝ程である。然れども彼等は實に東西文明の代表者であつて吾人が是非とも比較研究を要する人物である。日本人は歓迎しながら未だタゴールをもスマスをも十分に理解して居ない。特に世人がスマスを一個の輕業者と侮



川山りよ右列前會迎歐氏ルーゴタるけ於に寺永寛野上
(等氏人義田奥中廣野河、伯隈大、氏ルーゴタ、師仙默置日、長總大帝)

東西文明の代表者 (法學博士 澤田相民)

つたのは大なる間違であつた。タゴールに對して再び此の過失を繰り返さぬ様に注意したきものである。歡迎も其度を過れば却つて冷遇に劣ることがある。

タゴールに高遠の理想あればスマスにも亦た彼の理想がある。其の理想に同情せずして徒らに其の技術のみに心酔するは、却つて彼等の惡感を誘引するに過ぎなからう。タゴールは印度人で印度の理想を有し、スマスは米人で米人の理想を有して居るから吾人は又た日本人の理想を掲げて接待すべきことを忘れてはならぬ。タゴールは東洋文明の精華を身に體得し佛陀の慈悲と基督の博愛とを融合せる理想を懷き、又たスマスは米人であつて人道的博愛の理想を有し平和といふ點に於てタゴールと其時を一にするのである。唯だ彼等は平和を人間に持ち來たさんとする方法手段に於て全く違つて居る。タゴールは迷心深く煩惱多き人間の内界を征服し此の人間界を超越し一切平等の見地に立ち東西文明の要素を抱合融和せしめ以て人類に平和と幸福とを來たさんとしつゝあるのであるがスマスには斯る高遠なる内的理想はなからうけれども彼は科學の魔力を信じ此の魔力を應用して空界を征服し之を以て世界平和の爲めに貢獻するのは神意であり、又た自己の使命であらうと信じて居るのである。

世人が西洋文明といへば一概に物質的文明を聯想し、又た

東洋文明といへば只管に精神的文明を聯想するのは或る意味に於て謬想と言はねばならぬ。物質と文明とは反對である。物質に文明はない。文明は人間にあり、人間の精神内にある故に或る意味に於て物質的文明といふものはあり得べきでない。凡ての文明は精神的である。人間の精神が智識となり技術となり科學となりて物質界を支配するのを普通物質的文明と云ひ宗教、道德、政治、哲學、文藝、美術等の發達を稱して精神的文明といふ様であるが其實所謂物質的文明も精神的なることは言ふまでもない。唯だ第十九世紀に於ては前者の發達最も著明にして後者の進歩は之と併行する能はなかつたのである。

又だ現今西洋の文明が進歩的で東洋の文明が保守的となつて居るのは事實である。併し東洋の文明が保守的となるまでに大に進歩發展したことは争はれぬ事實である。それは東洋が西洋よりも早く開けた結果であつて元來東洋の文明が其の本質に於て保守的なる爲ではない。古代の支那人が如何に進歩的であつたかは湯王の盤の銘に荷日新日々新又日新とあるにても知らるゝのである。而して其頃歐羅巴は保守どころか全然野蠻若くは半開の時代であつた。古來大に發展した東洋の文明は現今停滞不進の状態にあるけれども時勢の進運に押されて今後亦た大に發展するであらう。且つ從來東洋と西洋

と互に隔絶して一方に偏しつゝ發展したものが爰に接觸會合し相互に感應して各々大變化をなすに相違ない。而して西洋の文明は東洋の感化を受け從來見ざる所の特色を發揮し又た東洋の文明は西洋の影響によりて再び活動進轉の時期に入り爰に過去に於けるよりも一層豊富圓滿なる世界的文明を見ることがなるであらう。我輩は此の意味に於て印度のタゴールと米人スミスとが同時に日本に來りて同様に歓迎優遇を受けたのを見て決して偶然の事とは思はない。

五

支那と印度とは東洋文明の先進國であつて日本より見れば共に我が文化の父母である。又政治上及び國際上に於ける支那印度の失敗が如何に我が國民に沈痛深刻なる教訓と警戒とを與へたかは明治維新前後の事實に照して明白なる所である我國現在の進運は支那印度の文明を基礎としながら支那印度の覆轍を蹈むまじと學國一致して努力した結果に外ならぬ。それで日本が支那印度に對する文明の負債は吾人が容易に返済する能はざる程大なるものである。然かも此の負債を返済するのは日本國民の東洋に於ける一大使命に外ならぬのであらう。

支那も印度も同じ東洋に位し乍ら日本の如く確實鞏固なる

國家的發達を爲す能はざる不利益なる事情の下にあつた。それは支那も印度も廣漠たる大陸であつて四方より諸人種諸民族絶えず侵入し來り遂に國民的國家をなすことが出来なかつた。支那も印度も一國家として統治するには餘りに土地廣く民族多過ぎたのである。支那は漢民族の優秀なる文化を有し又た印度は婆羅門族の偉大なる宗教により略ぼ文化的統一を爲すことは出来たが遂に鞏固なる國家をなすまでに到り得なかつた。支那は一帝國をなしたが其實散漫なる諸民族の集合

新任駐日露國大使クルペンスキー氏(五月二十二日東京着任)



に過ぎずして今日の狀態に陥り又た印度は古來曾て一帝國をなしたことなく諸人種諸民族の軋轢紛争を極め遂に歐羅巴人の乗する所となり今は三億に近き人民が僅々十萬内外の英國人に統治されて居るのである。國家的意識及び政治的組織力の缺乏は支那印度共通の弱點であつて第十九世紀の初半期獨逸の哲學者ヘゲルは其の歴史哲學に於て支那も印度と同じく早晚歐羅巴人に支配せらるゝ運命を有することを豫言した。要するに支那も印度も祖先崇拜、家族制度によつて各地各民族の社會的

東西文明の代表者 (法學博士 浮田和民)

ある。婆羅門教が印度全體を同化して居る様であるけれども其實之に獨立せる回教徒及び拜火教徒が居る。假令ひ婆羅門教は凡て他の諸民族及び諸宗教を抱合し得るとしても其の宗教と印度の階級制度とが離る可からざる關係となつて居る以上到底之によつて共同の愛國心を有する國民を造ることは不可能である。佛國革命以前又我が明治維新前の社會にも貴族平民の世襲的階級制度があつたけれども是は單に政治上又社會上の制度であつて人間が生前から造り出した運命的宗教制度ではなかつた。故に大革命の結果直ちに之を一掃し爰に新なる平等獨立の國民を組織することが出来た。印度の階級制度は婆羅門教の存續する限り容易に打破し難きものであるから今日印度より英國の統治を取り除いたならば諸民族の葛藤軋轢は英國人侵入以前の狀態と同じ事になるであらう。唯だ英國人の印度に於ける不幸なる状態は彼等が從來あつた印度階級制度の上に更に一層高き政治的階級を築き晉に諸階級の上に立つのみならず人間世界に於て唯一獨尊と自信した婆羅門族の上に立ち自からも印度人と同化せず、又た印度人を自己に同化することも爲し能はざる點に存するのである。英國人の印度に於ける使命は印度人が自から同化したから獨立し得るまでの事である。印度は英國人に征服せられたのではなく、印度人自から之を英國に與へた様なものである。印度の物質及び人口を以てして協同一致さへ出来るならば如何なる世界の強國と雖ども一手にて之を征服することは



(氏ロメロ、ーヒ、ムエしれさ遣派に式公りよ府政ザンラカ) 使公國暹駐新

不可能である。三億に近き人民であるから協同一致さへあるならば今日でも其の獨立は容易の事であらう。從來の有様では萬一英國が印度を統治し能はざる時期が來つたとしても印度は又た他の歐羅巴の強國民に支配さるゝ運命の下にあつた然し乍ら今は日英同盟があるから假令ひ其様な場合があるにせよ、印度は再び歐羅巴人の手に歸することは無からう。即ち至然自から獨立するか或は日本と提携して日英同盟に代ふるに日印同盟を以てするのみであらう。其の時期の來るまで日英同盟は印度を保護する搖籃の如きものと見るのが正當であらう。

六

然るに印度の獨立の爲めに甚だ障害となるのは深淵高大な印度思想そのものである。西洋諸國又た我が日本では宗教と哲學とは別物であり又た實際生活とは更に一層別物となつて居るが印度では宗教と哲學とが同一物であるのみならず社會の實生活に離れられぬ民族思想となつて居る。哲學は腦髓の練習としては甚だ有效であるけれども凡ての人が常に哲學思想を有つて居ては實際有效なる活動をなすことが出来なくなる。宗教も同じ事である。人間終極の問題は哲學で解決すること不可能では即ち宗教的信仰を必要とするけれども人間が常に此の終極問題を念頭に浮べて意識より離れることが出来なくなれば人間實際の事業を妨ぐることは當然の結果であらう。

あらう。人間が宇宙の廣大無邊と人生の不可思議とを生涯考へない様では其の俗惡醜劣思ひ違らるゝ次第であるけれども人間が一たび此の問題につき自己の確信を有する以上常に之を意識して思ひ運らし且つ煩悶する必要はない。寧ろ人間が實際界に於て活動をなす時には死生を忘れ、固より死後の問題などを思ひ起す違はない。それは日曜其他の安息日に限つて差支はない。これが實際に事業を爲す人の成功する秘訣である。若し商工業に従事し又は科學的研究をなす時に始終宗教的思想に附きまとはれては商工業の實務、科學上の發明は出来なくなる。然るに印度人の實際は此の如き状態ではないかと思はるゝ節がある。彼等は詩人として甚だ適任であらう又た哲學者として歐米人に劣らぬ天才があるであらう。然れども科學者には適任でない、政治家實業家としては更に不適任の様である。曾て印度の植物學者と稱する人の講義を聴たるが植物學は何時しか宗教となり、植物が全然靈魂を有する活佛となり了るの感と與へられた。固より西洋最近の科學が著しく東洋思想と抱合しつゝあることは事實であるが西洋の科學者が幾ら植物心理を説いても終始之を實驗科學として取扱つて居る。然るに印度人の生物學は全然宗教化するかと思はるゝのである。余は又た印度の學者と倫理問題を論じた事がある。然るに余の所謂道德は對人間の道德であるけれども彼の所謂道德は對宇宙の道德なることを發見し彼が思想の高遠なるに敬服したが一面には印度が斯る思想家を有し乍ら

英國から獨立する能はざることの偶然に非ざるを思ひ起した次第である。

斯くの如く印度思想は英國人若くは西洋の物質的文明以上に印度の獨立及び統一を害しつゝあるのである。印度第一の貴族たる婆羅門族が如何に自から高しとなし他の劣等階級を睥睨しても英國人に對しては頭が上らぬ、又た英國人より同等の對遇を受けることは出来ぬ。故に印度人にして若し英國の羈絆を脱せんと欲するならば先づ印度の階級制度を打破し印度人である以上如何なる賤民をも一視同仁、兄弟姉妹と視做し得る人間に生れ變らなければならぬ。即ち印度人が此の再生復活をなすまでは其の自治も獨立も實現せられぬであらう。而して此の再生復活の爲には英國人の壓迫と西洋の物質的文明とが印度の最大恩人である。英國人の壓迫に對して印度人が慷慨悲憤するとき始めて印度人共通の思想が發生しつゝあるのである。又た印度人が鐵道や電車の便を利用せんとする時始めて階級制度の維持し難き事を觀念しつゝあるのである。タゴールが半ば咒ひつゝある西洋の物質的文明は其實印度の救世主たる役目をなしつゝあるのである。

七

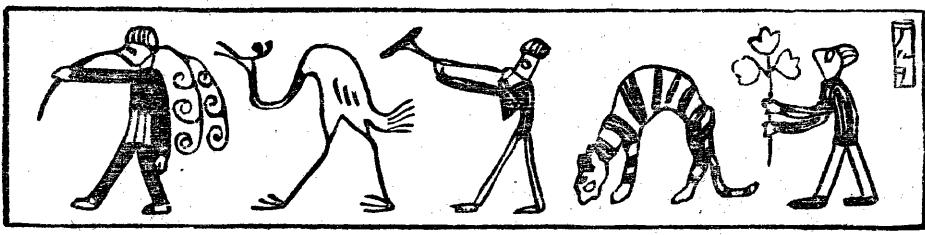
然りと雖も西洋の文明が其の發展の極度に達したと見た時、其の理想は如何なる所に歸着するであらうか。實際的文明の理想から言へば科學の應用完全の域に達し而して基督教

の世界同胞主義行はれさへすれば世界は黄金時代となる譯であるが斯くなつた場合に向一つ人間が解釋の出來ぬ問題がある。人生及び宇宙の實在如何といふことは是である。宇宙萬有は現象である。此の現象は本體なくして出で來るものでなからう。科學の應用如何に發達しても遂に宇宙の不可思議を取り消すことは出來ぬ。宇宙の本體は何處にあるか。人間は何の爲めに生死の海に流轉するか、其の解脱の方法如何といふ問題になれば古代の印度人は其の問題の廣さも深さも亦其の高さも穿ち盡くして天下後世此の問題を取扱ふ者の爲に凡べの鍵を與へた様のものである。

そこで歐米以外の文明を蔑視する西洋人にして印度の宗教及び哲學を研究し之を以て畢生の事業となし居る者も少くない。而して歐洲列國中最も深淵なる哲學思想を以て誇りとなす獨逸の學者も印度哲學に對しては多大の敬意を拂つて居る。此點から觀察するとタゴールが代表して居る東洋文明の精髓たる印度思想の中には西洋文明が到底超越することの出來ぬ要素が含まれて居る。飛行家スミス眼中には雪山の高さも富嶽の高さも餘り大した相違はなからう。然れどもタゴールの思想の中にはスミスが月の世界や星の世界まで飛行し得ても尚且つ到達する能はざる程高遠なる何物かを有つて居る。此の意味に於て印度の文明は不滅の價値あるものと言ふことが出來よう。

時事その日く

黒法師



その日く (黒法師)

露軍視勝御親電
大漁のかつをといふもめでたけれ
相約す男同士の扇かな
使して何れ涼しき國ならん
籤抽いて上座争ふ暑さかな
言ひ募り罵り募る暑さかな
猿狐蛇の酒もりお伽草子かな
麥埃聾も姑も嫁もかな
毒舌を叩きもぞする扇かな
心願の兵火の夢を夏書かな
爪れ木の毛虫ながらに庭涼し

黎總統の人氣
葉柳や水ある庭の立姿
打解けん風情も見えて明易き
五月雨濁水渦を巻き來る
橋を涼しき鉢に献じけり
金魚とるいたづら猫や又逃げし
禁斷の夜網の果やもつれ草
太刀取りに斬て捨てよの聲涼し
口抓る人の讒訴や涼み臺
手を打てば指南車動く雲の峰
病葉の散るよとばかり見しほどに
骨折れば骨折賃や田植酒